

「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）」市民意見の募集結果及び本市の考え方

<対応分類>

- A ビジョン（案）に反映するもの
- B ビジョン（案）に記載済み又は趣旨に含まれ、賛同いただいているもの
- C ビジョン（案）には反映しないが、その推進に当たり参考とするもの
- D ビジョン（案）には直接関係するものではないが、市政運営等の参考とするもの

1 ビジョンに反映するもの

意見内容	区分	本市の考え方
13 ページ 「特に困難な状況におかれている地域」の意味がよく分からない。	A	御意見を踏まえ、基本指針2の取組の方向性において、「特に、地域コミュニティの存続が厳しい地域」に修正しました。
ICT が進み、ワーケーションのように働く場所の多様化が進みます。いいか悪いかは別として、多拠点居住を進める事業も増え、実際に1人が複数の地域を担う時代になってきました。 このあたりのことを未来予測としてデータに入れて置いたらいかがでしょうか。	A	御意見を踏まえ、基本指針3の取組の方向性に「関係人口」を追加しました。
プロボノや関係人口の関わり方についても触れるほうが良い。	A	
・コミュニティの状況は京都市の情報で分析されているが、取り巻く社会状況は国ベースが中心で京都市の分析が不足し、かつ地域の実情の多様化というがその根拠やデータが示されていないので、京都市の現状・課題の分析とは言い難い。 ・課題解決に関わる主体として、在宅・近隣で勤務するワーカーや定年退職後の比較的勤務体制が緩やかなワーカーなどが増加しており、このような人たちも視野に入れるべき。	A	
人口減少と少子高齢化の危機感が薄いかと思えます。 年齢層別単身世帯数で、学生の単身も多いが高齢者の単身者が多い現状、単身の男女比率で、高齢女性の単身比率が伸びる未来、一方で高齢男性の単身者が地域に受け入れられない問題、（高齢男性については、どこかの取り組み例などでも入れてもいいはずです） 今後地域コミュニティは地元住民だけでは成り立たないので、都市部でも「関係人口」をコミュニティに必要としていることを見せられるデータがあったほうがいいです。いくつかの区の基本計画でも「関係人口」を取り上げています。	A	

2 第1章 京都市地域コミュニティ活性化ビジョンの基本的事項に関するもの

意見内容	区分	本市の考え方
<p>当ビジョンの目標年度改定はよい。（市の5か年計画と意味が違う）次に年度毎のステップの改定が望まれる。（市・区・各学区ごと）</p>	C	<p>御意見を踏まえ、地域コミュニティを取り巻く環境の変化等を踏まえ、各地域の実情等やニーズに応じて本ビジョンを推進してまいります。</p>
<p>（基本的事項について）</p> <p>・条例に基づき平成24年に策定し、同28年に改訂した京都市地域コミュニティ活性化推進計画と今回のビジョンとの関係性（名称が変わる理由と変える内容等）をしっかりと説明するべきである。</p>	B	<p>本ビジョンは、第1章に記載のとおり、平成24年に策定した計画及び同28年に改定した同計画・改定版に引き続き、地域コミュニティの活性化を総合的かつ計画的に推進するためにまとめたものです。</p> <p>目指す姿の実現のための基本方針や取組の方向性を市民の皆さんや事業者、行政が共有し、地域の皆さんが主体となって推進されるものとなるよう、名称を「地域コミュニティ活性化ビジョン」としています。</p>
<p>目指す姿・取組の方向性等として、自治会町内会の加入率ではなく、住民どうしのつながりづくり、地域活動への住民の参加促進という、より本質的な状態を目指していることがこれまでの計画よりも望ましいと感じる。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえて、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業を推進してまいります。</p>
<p>京都市政のすべての計画やビジョンの最上位にある、京都市の都市理念を示した「世界文化自由都市宣言」を記載すべきである。</p> <p>また、京都市基本計画と各区基本計画は、相互に補完する同列の計画であるが、「レジリエンス」や「京都創生」はそうした位置づけにはないので、イメージ図の修正を求める。</p>	C	<p>地域コミュニティは、市民の皆さまの暮らしのベースにあるもので、京都市が定めた様々な計画は、その多くが地域コミュニティに関係するものですが、第1章の体系図は、京都市基本計画の分野別計画の1つとして、地域コミュニティと関連の深い計画をイメージとしてまとめたものです。</p>
<p>第1章の2ビジョンの位置付けで、地域コミュニティ活性化ビジョンと、地域コミュニティに関連する計画のところについて、地域コミュニティが文化や観光とも関連することから、関連する計画として</p> <p>文化芸術都市創生計画 京都観光振興計画 2025</p> <p>も記載があつてよいのではと思います。</p>	C	

<p>パブリックコメント募集冊子、1ページに「地域にお住まいの一人一人が地域コミュニティの一員として自治会、町内会、学区自治連合会など…取り組んでこられました」とある。ところで「自治会、町内会」の加入単位は世帯であり、地域にお住まいの一人一人」ではない。本ビジョンの根である「京都市基本計画」「はばたけ未来へ！京（みやこ）プラン2025」の「都市経営の理念」は、それまでの「主人公たるべき市民」から「その主人公である市民」に大きく変化している。「相互に多様な在り方を認め合い、つながり、支え合っていく」メンバーシップを「世帯」から個人に変えていくための視点が必要なのではないかと考える。</p>	<p>C</p>	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考にさせていただきます。</p>
---	----------	--

3 第2章 京都市における地域コミュニティの現状と課題

意見内容	区分	本市の考え方
<p>デジタル技術の活用による業務の効率化は大いに進めなければならないと考えるが、パソコンやデータを見て人を見ないようになってしまっは何にもならない。人と人が直に接する中で感じる空気のようなものの中に数値やデータでは計り知れなく、微妙であっても重要なことがふくまれていることにも目を向ける必要がある。</p> <p>また、ICT の活用によって便利になるだろうけど、時間の節約にもなって、自分のやりたいことができる時間が増えるだろうけど、そのような環境を整えて維持するにはそれなりに経費がかかる。経済的に厳しい家庭や企業ではそのようなことをするゆとりがあるだろうか？そういうところへの補助の方法も考えられるかも知れないが、従来の環境をそのまま持ってとりあえず今の状況を維持することだけで精一杯になっている人も少なくないと思う。そのような人たちへの金銭面だけでなく、活用の仕方やトラブルが起きたときの対処の仕方まで援助できる仕組みが必要だと思う。また、税制面でもたとえば基礎控除などは100年1日のごとく昔ながらの水準が維持されており、生活に最低限必要な経費と全くかけ離れた現状であることに対しても目を向ける必要があると考える。</p> <p>誰もが気軽に参加できる居場所は、町内の中にあっても良いだろうけど、例えば ZOOM などのオンラインで人とつながるための様々なサポートが気軽に受けられる環境があるということも一つのポイントになるだろう。</p> <p>スマホやパソコンで情報のやりとりを頻繁に行えるようになってきているので、ICT の活用はどんどん進んで聞くことだろうと思えるが、個人で持っているスマホに多くの人の電話番号やメールアドレスが保存されているので、今の状況では個人の意思によって削除や変更など必要な操作が行われているのが現状ではないだろうか。一定の地域の役割を担う人にはそれにふさわしい ICT 環境が必要になってくることと思うので、そういう面での支援も必要だと思う。</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、ICT ツールの活用を促進することは、地域活動に参加しやすい環境づくりや住民同士のコミュニケーションの円滑化、場所・時間を問わない柔軟な関わり方を可能にします。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、住民間の情報共有における ICT ツールの活用促進や地域団体が地域活動に ICT ツールを導入するための支援等を推進してまいります。</p>

<p>内容全般で、過去の継続案件のままの印象があります。</p> <p>ICT 化を表現したところで、その先が表現されなければ進みません、</p> <p>ICT を使ったらどうなるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会組織がバーチャル自治会組織となる ・世帯ごとで参加していた自治会が、家族全員が一人ひとりの役割のもと参加するきっかけになる ・単身世帯，学生でも気軽に参加でき意見が言える，新着情報が得られる ・若者がやりたいイベントが若者主体でできる ・バーチャルな世界でのイベントが生まれる <p>未来を見せてください。</p>	B	
<p>地域コミュニティの海外の事例を比較研究し、その役割を俯瞰的に整理してほしい。</p> <p>同じアジアでも東と南で、ヨーロッパでも北と南でコミュニティの歴史や役割、性格が違うはず。</p> <p>コミュニティは必要なものでこうあるべき、という思い込みが皆を息苦しくさせている。本当に必要？</p> <p>平穏な生活を脅かすもの、災害、犯罪、獣害に対し、行政に頼れない状況で住民が結束するところに本質があるのでは。</p> <p>その理屈でいくと中米や北アフリカからの難民を追い払うために自警団を結成し、有刺鉄線や銃器で対抗するのは「安心安全、支え合いの精神」に基づく素晴らしい自治、ということでしょうか。</p>	C	<p>京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会等が中心となり、地域コミュニティが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見は、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>現状の町内会の規約は、人口の増加又は維持が見込めていた頃（きれいな人口ピラミッド）に作られた、当時の標準モデルが更新されないまま制度疲労を起こしていると思う。更に言えば、専業主婦や余剰人口（平日昼間に町内をうろろできるくらいヒマな農村型の男性とか）が当たり前存在していた前提、強制加入の幻想が効いていた時代背景など。</p> <p>現状の町内会の規約に挙げる事業には、運動会、敬老会・婦人部のイベントなど、人口構成においてバグったものが多い。アプリであればとくに更新されるべきものが未だに Ver1.0 のまま放置された状態となっている。</p> <p>規約には改定手続きも載っているはずだが、誰も読まない、知らない、手を動かさない、知識能力不足で翌年度にパスされ</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会等が中心となり、地域コミュニティが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、</p>

<p>続けている。会費というお金がからんでなければ即刻解散もできるが、それもできず余計に面倒が増している。</p>		<p>今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業を推進してまいります。</p>
<p>町内会は必要。存続させるべき。災害時は特に入っているメリットはある。</p>	B	
<p>町内会は大事だと思う。ただなり手が少ない。会長は市政協力委員を兼任しているが負担なので兼任の必要はないと思う。</p>	B	
<p>つながりはあったほうがいいと思います。活性化する地域もあっていいと思います。でも社会背景も分析されているなかで、活性化とは、特定の人の価値観の押し売りではないでしょうか。どうか、最低限のつながりでもいいよ、というものもビジョンの中に盛り込んでください。その方が安心して暮らせます。名称を地域コミュニティビジョンぐらいに改めてください。</p>	B	
<p>地域（町内会）活動への「参加」が押し付けになっていませんか？いわゆる「地域のコミュニティ」は、大事であることは否定しませんが、これを求める方もおられれば苦手とする方もおられます。また、「地域コミュニティ」により、トラブルになることもあります。</p> <p>この計画により、地域活動に参加することが「正義」で、参加しないことを「悪」とするような、誤ったメッセージにならないことを祈ります。</p> <p>「一見様お断り」の地域防災・地域福祉ではなく、有事の際は、一見様同士で力を合わせられるような、あたらしい仕組みを期待します。</p> <p>様々な面で「多様性」がうたわれている時代において、全ての地域コミュニティを自治会に依存するのではなく、「脱自治会」の地域活動も必要ではないでしょうか？</p> <p>※町内会を否定するものではありません。地域に根差した大事な役割があり、理想は全世帯が加入すべきと思いますが、残念ながら、そういう時代でもなくなったのかなと、思います。無理な理想を追いかけるのではなく、実現可能な新しい形を見出してほしいと思います。</p>	B	

<p>総論的にはいろいろ検討されていて参考になります。</p> <p>どの項目にということではないのですが、意見というより感想めいたものを以下に記します。</p> <p>地域社会活動への参加が弱体化してきた要因は様々にあり、かつ様々な要因が総体化した結果で一概に特定できるものではありませんが、愚痴っぽくいうと、永らく個人（責任）を強制してきた施策—これは大いに責任をとって欲しいと思います—と、それをイデオロギー的に受け入れてしまったわたしたちにあるように思えます。</p> <p>自治体行政はそうしたことに対し、高い見識と度量でもって、常に防波堤としての役割を果たすべきだし、果たして欲しいと思います。</p> <p>「顔が見える」という点では、地域活動に一定程度参加してくると、相手の顔を見て（対面で）、感情の起伏、移り変わりを肌で感じ直接会話することが肝要で、そのことから離れたところで技術的にカバーしても人（間）的組織化は実り薄いように思います。自らにもどして云いますと、それが子どもときからの生活（訓）でもあり、ましてやいまでも社会生活の基本と思っています。</p> <p>直接対話による人的組織化は、そのためには「ゆとり」が保障されることが必要で、今日のような労働（身分的）・経済的・時間的に余裕のない社会生活は解消・改善が最優先になされる必要があると思います。</p> <p>地域活動参加への一歩に、既存の地域団体（活動）に対する信頼（感）もあるように思いますが、中にはその運営にむしろ不信（感）を持つ団体すらあると思います。この点からは既存団体の在りように、地域的から改善を求めるよう指導しつつ、いま一度団体活動自体にメスを入れる行政主導が必要ではないかと思えます。</p> <p>自治活動の奨励にあつて、京都は永らく町内会単位での活動に期待し、応援してきたと思いますが、最も中核の自治連（活動）は任意団体的扱いで、対応が十分とは見受けられません。財政的援助を含めた相応の対応が求められるのではと思います。</p>	C	<p>京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会等が中心となり、地域コミュニティが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見は、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>地域コミュニティが活性化している状態とはどういう状況なのか。多様なありかたを認めれば、コミュニティにかかわりたくない人も当然認めることになる。そういう考えの方々と支えあえるのか。ICTが普及、拡大したからことは、顔</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考にさせていただきます。</p>

<p>と顔を合わせるコミュニケーションが少なくなった一因とは考えられないのか。などを考えると地域コミュニティが活性化している状態とは何なのかがわからない。</p>		
<p>「これまでの取組と成果」として「自治会加入世帯数（推計）の増加」とある。一方、冊子1ページの冒頭に「京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、地域にお住まいの一人一人が地域コミュニティの一員として…」とある。本「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（案）」における「相互に…認め合い、つながり、支え合っていく」基礎単位は「世帯」なのか「一人一人」なのかが明確に示さなければ「ビジョンの目指す姿（目標）「1」の「誰もが」「顔が見える」の対象が分からない。自治会加入単位を「世帯」から個人にしなければ「ビジョンの目指す姿」は実現しようがないと考える。</p>	C	
<p>ICT ツールを手段としてとらえているが、地域コミュニティ概念の広がりや関係性の重層化ととらえる視点も重要と考える。</p> <p>例えば、非常時の取り残しなどでコミュニティ外の人を通じて繋がりあえているかなど、ツールとしての意味以上に社会の構成要素として考える時期ではないか。</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、ICTツールの活用を促進することは、地域活動に参加しやすい環境づくりや住民同士のコミュニケーションの円滑化、場所・時間を問わない柔軟な関わり方を可能にします。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、住民間の情報共有におけるICTツールの活用促進や地域団体が地域活動にICTツールを導入するための支援等を推進してまいります。</p>
<p>去年から京都に越してきたのですが、近くに学校などがあるにも関わらず、地域活動にどんなことがあるのか見えていません。今はコロナ禍なので仕方ない部分も多いかと思いますが、清掃活動など、市民新聞にも載らない小さな地域での活動が見えるようになったらいいなと思っています。</p> <p>私は20代の主婦ですが、この地域でのつながりが全くないので、寂しいなというのが正直なところ。子供がいるわけではないので、盆踊りや〇〇大会などは参加しにくい部分もあるのですが、ちょっとしたボランティアなどがあれば参加しやすいだろうと思います。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>	B	<p>本ビジョンでは、誰もがそれぞれの年代や職業、働き方、ライフステージなどに応じて地域と関わりを持ち、相互に多様な在り方を認め合い、つながり、支え合っ、安心して快適に暮らせる地域づくりを進めることとしています。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、住民同士のつながりづくりや地域</p>

<p>多くの人が、イベントなどには参加したい、してもいいと思っ ていると思いますが、これはあくまでも来場者としてという程 度で、運営側では考えていないと思います。</p> <p>こうした意識の改革のためにも、こうした方針を定めて取 り組んでいただくのはありがたいことだと思います。</p>	B	活動への住民の参加促進に取り組 んでまいります。
<p>まちづくり活動をしなかった理由に「参加する時間がない 、合わないから」と回答した人が42.1%となっております が、これは私自身もそうなのですが、結局のところ参加しよ うと思っていないからだと思います。</p> <p>つまり「参加する時間がない」ではなく、「参加するための 時間を確保しようとは思っていない」し「自分から時間を 合わせるつもりはない」ということだと思います。</p> <p>なので、やはりその前段となる意識を変えないといけない んだらうなと思いました。</p>	B	
<p>自治会の集会で、お茶の当番が暗黙で女性の役割となっ ている。これはおかしい。市は啓発をしてほしい。</p>	B	
<p>町内、地域の関わり合いについて高齢者の人たちに昔日常 生活のなかでの会話、行動を広く聞き取りそれをヒントに今 様に変えれば参考にならないか？コミュニティのツールをま とめる。</p> <p>参加者には無理のない自分のできる事から</p> <ul style="list-style-type: none"> 。職業別 農業 漁業 小売業 サラリーマン 他 。年齢別 幼児 児童 学生 。性別 男女 既婚, 未婚 。祝い事他 結婚 病気 葬式 。地域の行事 お祭り お正月 地域の運動会 公園の 草引き 溝掃除 近所におすそ分け 庭の花 庭の果物 他人からのもらい物 	B	
<p>京都はこれまでから番組小学校をはじめ地域社会を考え近 隣住民、地域のことを考え住民主体でまちづくりを形成して きた。個々については言わないが、設問1に記した項目全て この計画に賛成であるし、応援したい。</p>	B	本ビジョンにも記載のとおり、 京都では、住民自治の伝統や支え 合いの精神に基づき、自治会、町 内会等が中心となり、地域コミュ ニティが形成され、京都の発展に 大きく寄与してきましたが、ライ フスタイルや価値観の多様化等を 背景として、地域住民同士のつな がりの希薄化、地域団体の担い手
<p>第2章にまとめられたものは「まさしく」でした。自治会 会長を2021年させていただき実感いたしました。一般での役 員ではわかり得なかった事かと思ひます。</p> <p>私の住む市営住宅は住居数1005戸に対し、自治会員数389 世帯であり、自治会活動において、同じメンバーで運営の活 動となっております。</p>	B	

		<p>不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業を推進してまいります。</p>
<p>第2章の内容、京都市における地域コミュニティの現状と課題についてですが、地域住民同市のつながりが「強くない」が過半数というのはあまりよくないと思います。</p> <p>地域住民同市のつながりがあればもし困ったときにおたがいに助けてもらえるので</p>	B	<p>本ビジョンでは、誰もがそれぞれの年代や職業、働き方、ライフステージなどに応じて地域と関わりを持ち、相互に多様な在り方を認め合い、つながり、支え合っ</p>
<p>本誌で取り上げておられる通り地域の繋がり希薄化を切実に感じ日々の生活を送っております。</p> <p>また、学区内で行われているイベントの参加者やボランティア的役割等、自治連合会や町内会の協力者は限られ高齢化が進み担い手不足を痛感しております。</p> <p>人と人とが繋がることはとても難しく、お誘いしても人間関係が嫌でもう静かに暮らしたい拘わりたくないと思う人もおられます。時代に合った地域としてできることは何か、繋がることの必要性や大切さを理解し行政と市民が共に考え一人ひとりの意識改革が必要となっているのが現状です。</p> <p>地域文化の個性や継承の壁を取り除くことは一概にはできませんが、次世代に繋ぐまたその未来に向けたSDGs基本計画を目標に取り組む必要性を感じます。</p> <p>また、町づくりの課題として中京区内の分譲マンション、賃貸住居家賃等は高額で若い世代が入居できないことも少子化問題や担い手不足に繋がっていることが考えられます。</p> <p>住みたくても住めない町、中京区のイメージを変えていく必要性を感じます。</p>	B	<p>て、安心して快適に暮らせる地域づくりを進めることとしています。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、住民同士のつながりづくりや地域活動への住民の参加促進に取り組んでまいります。</p>
<p>まちの整備や住環境等が一定整ったことから、地域住民全体の課題というものがなくなり、課題解決のため住民が一丸となって実行していくことがなくなっているのではないかと。</p>	C	<p>京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会等が中心となり、地域コミュニティが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等</p>
<p>自治会に入らないデメリットとして、防災、防犯、福祉等への対応に支障が出てくるだけでしょうか？ それぐらいであれば自治会に加入する必要性が特に必要が感じられません。</p>	C	

<p>地域のじいさんの古い価値観をヨシとするのであれば、地域コミュニティの活性化なんていらぬ。普通の一市民が、普通に暮らせるつながりさえあればよい。理念は理解するが、どれだけ税金をかけるのかしらないが、行政がコストをかけて取り組む話ではないと思う。</p>	C	<p>を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見は、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>パブコメ募集資料3ページ「2 地域コミュニティの現状と課題」に「更に、新型コロナウイルス感染症の影響により」との記載があり、関連するアンケートデータが示されているが、では本ビジョンで誰が何をするのかそれによって「新型コロナウイルス感染症の影響」にどのような効果があるのか、又、その効果をどのような評価基準や項目で測定するのかについて全く見えないままである。到達主義に徹したパブリックコメントの募集をして頂きたい。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考にさせていただきます。</p>
<p>住民の地域活動への参加率の低下の現状分析の中、まちづくり活動をしなかった理由について「参加のきっかけ、方法がわからない。わかりにくいから。」との理由が47%を占めています。</p> <p>地域活動のきっかけには、地域の祭や文化事業、スポーツ等のイベントがきっかけになると思います。地域コミュニティにとって身近なことから文化が存在し、維持すべき文化が、地域の誇りとなり、その地域の多様な文化に観光客があこがれ、地域住民のほか、多くの方が多様な地域の文化に触れたい、その地域に訪れたいと思うことで、「地域コミュニティ」に誇りが生まれて地域の絆の強化に繋がり、更なる地域文化の維持・継承の原動力となる好循環が生まれると思います。</p> <p>「地域コミュニティ活性化を後押しする社会状況」に、地域活性化を後押しする有効な手段として、地域文化の継承と観光の理想的な関係性を築いていく観点をいただければ、いかがでしょうか。</p> <p>地域コミュニティ活性化には、文化や観光の視点が大切だと思います。</p>	C	<p>本ビジョンの「地域コミュニティ活性化を後押しする社会状況」には、最近の新たな動きとして「ICTツール」「地域課題の解決に関わる主体の増加」を記載しましたが、いただいた御意見は、地域コミュニティ活性化を進めるうえでの視点として、今後の施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>様々な行政サービスのカットがされ、若い世代の定住離れが考えられ、益々高齢者の高齢化でこの先自治会安定運営できるか不安が残る。</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町</p>

		<p>内会等が中心となり、地域コミュニティが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業を推進してまいります。</p>
<p>つながりは大切だと思うが、地域コミュニティと言われるとしっかりこない。大人なので何も言わないが、近所でもそりが合わない人はいるし、関わりたくないような人もいる。</p> <p>子どもの見守りと称して、このご時勢にマスクもつけずに子供に話しかける、晩御飯の準備で早く連れて帰りたいのに道をふさいで話しかけてくる構ってほしい人など、困っている。そういう人に関わると面倒くさいので、周りの人も誰も何も言わない。</p> <p>そういった現実がある中で、いい面だけを捉えて地域コミュニティとされても市民は困るのでは。という批判もありますが、地域で毎朝見守りに立たれている大半の方には頭の下がる思いですし、そういった人こそ、行政が支援してほしい。</p>	C	<p>京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会等が中心となり、地域コミュニティが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見は、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>これまでの取組と成果の事例が記載されていますが、当該ビジョンをもとに取組んだ内容でないものが取組に散見され、それを成果とすると、他部署の反発を招かないか心配です。</p> <p>このビジョン自体の取組と成果を抽出し、このビジョンがあるからこそその成果を見せない限り、「地域コミュニティ活性化」に必要なビジョンとして扱われたいと思います。</p> <p>また、成果と言いつつ表彰制度や事業名だけが挙げられているものに対して、どう成果だったのかが見えません。その事業が不要といわれても致し方ないかと思えます。</p> <p>また、自治体価値加入世帯数（推計）の増加、という点に信ぴょう性が疑われます。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の本ビジョンの推進（進行管理）の参考にさせていただきます。</p>

<p>加入率の調査の仕方が各区、学区で統一されていないので、信用できないデータで増加といわれてもピンときません。</p> <p>加入率調査の同じ調査方法等をつくり、全市のデータの取り方を一致させ、年ごとに追わなくては、データそのものに意味がありません。なので、いっそ「課題」に町内会加入率が図れないという点を挙げてみるのはいかがでしょうか。あげることで、統一した動きで正確なデータが必要だ、となればみつけものかと。</p>		
<p>地域学区における取り組みとして、大きく2つの課題があります。1つは自治会・町内会の加入 および活動であり、もう1つは各地域団体（各種団体）の活動であり、そして、この2つの結びつきの連携です。</p> <p>現状は当学区では自治会・町内会の加入世帯数は毎年減少し、この5年間（2017～2021年）で237世帯減少、加入率は約52%となりますが、学区世帯数の増加を加味すれば、過半数を切る状態です。</p> <p>深草支所管内5学区の平均加入率は約55.5%（2016年調査、当学区は56.4%）です。京都市の推計自治会・町内会加入率は69.8%～67.7%と示され、約15%以上の大きな乖離があります。</p> <p>果たして、この推計は実態を把握しているのかどうか疑わしく思います。それとも、各地域学区における差異なのでしょうか。</p> <p>推定されるのは明治期からの番組小学校を中心とした学区と伏見区のような学区との歴史的な経緯が現れているのでしょうか。また、行政区別の居住状況にもよると思われます。</p> <p>いずれにしても、加入世帯および加入率の正確な把握がなければ、実質的な実態に則した施策及び計画も審議も成り立たないと思います。</p> <p>各行政区ごとに各学区の加入世帯の報告は可能であり、それほど難しい作業とは思えません。</p>	C	
<p>地域活動の担い手不足とあるが、そもそも定例的な会合や役員だけが参加する福祉活動など誰も求めていないような無駄な活動が多いのでは？今後人が減るのは目に見えているのだから、それぞれの自治会が無駄な活動を整理していくことから始めてはどうか。</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、地域団体が将来にわたって運営を継続していくためには、新たな担い手の育成はもとより、社会環境の変化に合わせて地域で担う活動</p>

<p>住民への情報や業務の降り方に課題があるのではないか。今のチラシの回覧をいつまでやるのか。</p> <p>日赤募金も、住民レベルからはノーと言えないのが実態。実質的に下請け企業的な役回りを担っている。</p> <p>企業でもロボットを活用しているのに、町内会レベルではマンパワーに頼られている状況。組織構造が断線を起こしている。</p>	C	<p>の効率化や負担軽減を図っていくことが重要です。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、地域団体の持続可能な運営の支援を行ってまいります。</p>
<p>町内会は必要。町内会が担っている機能は、かつて役所が担うべき機能の補完又は代行の名残りのものもある。市はそれを図示して説明してもらえないか。</p>	C	<p>京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会等が中心となり、地域コミュニティが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見は、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>町内会に加入しない世帯も増え、担い手の不足など、地域で受け継いできた伝統文化やお祭りの維持、継承が、年々課題になっています。コロナでお祭り自体が中止になるなど、より厳しい状態になっています。</p> <p>コロナ以前は、外国人も含めた多くの観光客の方がお越しになられ、我々のお祭りを見ておられました。真剣な眼差しで観光客に見られることは、我々にとっても誇りになるもので、やりがいに加え地域の団結や絆の強化につながっていたように感じます。地域コミュニティの活性化には、地域の方だけの取組だけでなく、観光客の存在も後押しするのでしょうか。</p>	C	<p>本ビジョンの「地域コミュニティ活性化を後押しする社会状況」には、最近の新たな動きとして「ICT ツール」「地域課題の解決に関わる主体の増加」を記載しましたが、いただいた御意見は、地域コミュニティ活性化を進めるうえでの視点として、今後の施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>今年度より私が住んでいる町内は高齢化及び町内の役のたらい回しによるトラブルを回避するため町内会を廃止し、地蔵盆を行うためだけの地蔵盆保存会として、新たにスタート致しました。</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、地域団体が将来にわたって運営を継続していくためには、新たな担い手の育成はもとより、社会環境の変化に合わせて地域で担う活動</p>

<p>今まで町内会よりシンプルで目的もはっきりしているため、新たに引っ越してこられた方にも勧誘しやすく、年に一回だけの行事のため、各世帯の負担も大きく減少しました。</p> <p>若い子育て世代にはPTAと町内会が悪い印象しかなく、この昭和のシステムを維持するのは困難だと思います。</p> <p>京都市も機能不全に陥っている町内に職員を入れて立て直してみたら、問題がはっきりすると思います。</p>		<p>の効率化や負担軽減を図っていくことが重要です。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、地域団体の持続可能な運営の支援を行ってまいります。</p>
<p>町内会に入っている、全然メリットを感じない。役は押し付けられ老人たちは自分たちだけ町内会費を使い旅行に行くなど。もっと若い世代に町内会に入っていて良かったと思えるような仕組みにしなければ加入しようと思わないし抜けていく人も増えるのではないかと。</p> <p>また、市に相談しても結局自分たちのことは自分でとまっていまい、根本的な解決にはつながらないと思う。</p> <p>いっそのこと、京都市として町内会はノータッチにしまえばいいのではないかと。助成金とかも出さなくていい。私たちの税金を無駄にしないでほしい。ちゃんとやるところはやるだろうし、やらないところはやらない。</p>	C	<p>京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会等が中心となり、地域コミュニティが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見は、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>日本人はみんな忙しすぎるのだ。もっと仕事を減らして時間のゆとりが持てる生活をしないといけない。家庭と仕事に身を減らし、地域活動までしようと思うと、それが趣味かライフワーク的な人にしかできない。真のライフワーク・バランスを言うなら仕事を減らすべき。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>自治会、町内会は、よその町内会の情報に乏しく閉鎖的になりがちです。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考とさせていただきます。</p>

<p>住民の中にはいろいろな事情があつて自治会に未加入であつたり、退会をする人が少なからずいる。また今後そういう人が増えていくことも懸念される。そのような人たちへの加入促進の問題だけでなく、自治会役員がそういう自治会に入っていない人への対応について困難さを感じている。むしろそういう人にまで市民新聞の配布も含めていろいろなチラシ等の配布をすることに疑問を表す事態も生まれてきている。それはやはり役員にとって自治会に入っていない人にまで配布をすることが大きな負担になってきていることや、むしろ入らなくても良いのではないかという意識が生まれてきていると感じていることにも原因があるだろう。このことは自治会自体が考えなければならぬことではあるが、自治会だけでは解決の方向を見つけるのが困難になってきていることでもある。</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、地域団体が将来にわたって運営を継続していくためには、新たな担い手の育成はもとより、社会環境の変化に合わせて地域で担う活動の効率化や負担軽減を図っていくことが重要です。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、地域団体の持続可能な運営の支援を行ってまいります。</p>
<p>今ある地域の行事や伝統的な取り組みを大切にすることも必要であると思う。例えば祇園祭などの大きな行事でなく、各町内で伝統的に行われてきた地蔵盆はどうだろう。子どもの数が減ったり、宗教的であるために参加することに抵抗があつたりするので、夏祭りという形に変えている部分もあるが、そのような各町内で行われてきた伝統行事を、現代のニーズに合わせた形に変えても、実施するのが困難になっている部分もあり、無くなりつつある。そういうところへ援助するようなことは考えられないだろうか。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえて、地域の自主的な活動を引き続き支援してまいります。</p>
<p>町内の公民館や自治会館などが古くなって、耐震工事などをするにもその費用の捻出が困難である場合もある。そのような部分への援助も地域のつながりを維持する上では有効ではないだろうか。</p> <p>またそのようなところで ICT を導入する設備面や財政面及び維持管理での援助を気軽に受けられる仕組みが必要であろう。</p>	B	<p>本市では、地域の集会所の新築や修繕に要する経費の一部を補助する「京都市集会所新築等補助金交付制度」を運用しています。</p> <p>また、地域活動の効率化や負担軽減にも効果のある ICT ツールの更なる普及・定着を図っていくに当たり、地域団体の ICT 導入促進のための費用を助成しています。</p>

<p>自治会・町内会の加入率が過半数を切り、減少傾向の状況下では今日的な自治会・町内会の必要性を問いたださざるを得なくなります。高齢化、共働き 及び子育てが普通になっている社会生活において、いままでの旧態依然化した自治会・町内会のあり方、システムではジリ貧化していかざるを得ません。当然ながら、町内会長のなり手も、各役員の担い手もないので町内会を解散する現象が2町内会も出てきています。このままでは波及していく傾向にあります。理由はまず町内会長および役員職に魅力を感じないこと。回覧、チラシ配布等の作業（特に行政関係）が主であり、行政の下請け機関になってしまっているのが興味を感じられなくなっています。ほとんどの町内会が1年毎の輪番制になっていることが物語っています。果たして、今日的な社会状況及び生活環境において、自治会・町内会の形態が必要なのか、多様化（多用性）が言われるなら、それに見合った形（あり様）を模索し、根本的な議論を始めるべきだと思います。</p> <p>一方、もう1つの各地域団体（各種団体）についても同じく、担い手がなく魅力を感じるものにはなっていません。戦後以降、60～70年間設置されてきていますが、形骸化され役割を終えているような感もあり、やってみたいという興味を感じられなくなっています。京都市の施策だから仕方なく名を連ねている状況ではなかろうかと思われまます。自治会・町内会と地域団体との関係もどうい連携になっているのかも不透明です。自治会・町内会の役員に各地域団体の委員があり、ほとんど兼務になっています。行政等の回覧およびチラシ配布の作業がほとんどです。町内会の中には町内会長がすべて或いはほとんど兼務しているところもあります。自治会・町内会での各地域団体の委員の役割および需要が希薄になっている団体（委員）もあります。見直すべき時です。</p> <p>地域団体によってはイベントを開催して住民の参加を促進していますが、このことが自治会・町内会の加入促進に結びつき、町内会長等の担い手、あるいは地域団体の担い手につながっているのかどうか明確ではありません。すなわち、ふれあいプラザ、体育祭、盆踊り、もちつき、防災訓練等々のイベントを地域学区として開催していても、加入率は減少傾向にあることは明白です。</p> <p>また、地域住民は各地域団体（各種団体）をよく知らない</p>	<p>B</p> <p>本ビジョンにも記載のとおり、地域団体が将来にわたって運営を継続していくためには、新たな担い手の育成はもとより、社会環境の変化に合わせて地域で担う活動の効率化や負担軽減を図っていくことが重要です。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、地域団体の持続可能な運営の支援を行ってまいります。</p>
---	--

<p>し、その役割も分からない、特に世代によっては顕著であろうと思われます。精査、吟味して硬直化した形の改変を促すことが必要になってきています。</p> <p>いま、自治会・町内会の必要性、あり方を求め、防災という共通課題を活用手段として模索し探すため、「防災避難動向調査」アンケートを全加入世帯（約4,000世帯）に実施し、集計後の対策と活用方法の取り組みをすすめています。</p> <p>地域団体においても活動ができなくなっている部分を他の団体との連携で支援できるのか、それとも必要性がないのかの見直しを含めた議論が必要になっていきます。地域力アップ活動事業として、どういう連携ができるのか、それとも必要ないのか、話し合いを重ねるしかありません。</p> <p>自治会・町内会および自治連合会を含め地域団体が地域住民にとって、いま、どういう形（あり方）で必要なのかどうかを問うべき時期にあります。必要とするなら住民自らが担えるシステムをつくらねばなりません。</p>		
<p>基本は地域（町内会等）のコミュニティの停滞（更には崩壊）であるが高齢化、地域無関心等への具体策の共有がいる。（上位下達でなく）一例として市政協力委員制度の良さを生かすための基本的改正。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考にさせていただきます。</p>
<p>このパブコメでは「多様」という言葉が多用されていて、余り解決に役立たない。この多様さをモデル化（類型化）し、地域団体が気づき、解決に向けて取り組みやすい事例を紹介するなど、いろいろな段階にある地域団体を取りこぼさないよう考慮していただきたい。</p>	C	<p>本ビジョンにも記載のとおり、地域ごとに異なる実情を把握し、それぞれの地域の実情・ニーズに応じて、きめ細かな方策の検討、支援を行っていきます。</p>
<p>この京都市 地域コミュニティ活性化ビジョン（案）は自治会・町内会の推計加入率が約70%ですから、このようなビジョン（案）になると思われますが、加入率が過半数を切る傾向にある状態、或いは切っている状態では絵に描いた餅でしかありません。もっと深刻な問題です。地域学区に差異があることが明白なら、その施策は地域課題に対応した的確な対策を進めることが重要だと思います。地域がかかえる課題を根本的に見直すことも必要であり、地域課題を少しでも解決に導くビジョン（案）を構築すべきではないでしょうか。このままではジリ貧化し、持続可能とはならないでしょう。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえて、多様な地域の特性に即した地域活動を推進してまいります。</p>
<p>・京都市外から市内に引っ越してきて街中に近隣住宅の名前が記載された住宅地図がそこら中にあることに驚きました。あれも「地域活動」の為に自治会が行っているのでしょうか</p>	C	<p>地域団体が将来にわたって運営を継続していくためには、新たな担い手の育成はもとより、社会環</p>

<p>か？地震等の災害時誰がどこに住んでいるかある程度近隣同士で把握することは大事かと思いますが、プライベート保護や防犯(ストーキング, DV 被害者保護, 子供への加害等)の観点から即刻中止すべきかと思います。スマホで簡単に地図が調べられる時代に, 誰が何のためにやっているのか全く理解出来ません。</p> <p>時代錯誤の風習を見直さず自治会役員が自己満足の為にやっているだけなのであれば迷惑です。</p>	<p>境の変化に合わせて地域で担う活動の効率化や負担軽減を図っていくことが重要です。</p> <p>いただいた御意見を今後の地域団体の持続可能な運営の支援の参考にさせていただきます。</p>
---	---

4 第3章 京都市における地域コミュニティ活性化の推進（取組の方向性）

（1）基本指針1 一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくり

意見内容	区分	本市の考え方
<p>回覧版が回ってくるが、このご時世不特定多数の手が触れたものを家に持ち込むことに抵抗がある。</p> <p>ぜひ ICT ツール化を進めて、SNS などを使って地域の情報共有をしてほしい</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、ICTツールの活用を促進することは、地域活動に参加しやすい環境づくりや住民同士のコミュニケーションの円滑化、場所・時間を問わない柔軟な関わり方を可能にします。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、住民間の情報共有における ICT ツールの活用促進や地域団体が地域活動に ICT ツールを導入するための支援等を推進してまいります。</p>
<p>住民は京都市内での安全安心な生活を営む権利を持っており、最近はさらにその期待を高めている。コロナワクチン接種予約の状況を見ても対面より電話、電話よりネット予約の状況が必須である。現状コロナ禍の時代において、今後対面でのコミュニティ活性化は困難な状況であり、与える情報以上に求める情報に素早くアクセスできる情報源が必須とされる。LINE やホームページを用いる e-learning や関連役員の zoom 会議を具体的、早急に行うことが優先されるべきあり、その体制構築が必要である。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえ、意見交換会や検討会など地域における話し合いの場づくりへの支援等、地域の特性に即した地域活動を推進してまいります。</p>
<p>魅力ある事業を実施する。</p> <p>伏見区では、「伏見プラザ」のお祭りや、横大路の「桂川・草津みなと鯉海道まつり」等が実施されてきた。参加者、皆が楽しめる良い事業だと思う。コロナ禍で実施が困難となっているが、このような事業が地域で、実施できることを各種地域団体が認識して、運用ノウハウを学べる場を作るサポートを京都市が中心となっていければよいと思う。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえ、意見交換会や検討会など地域における話し合いの場づくりへの支援等、地域の特性に即した地域活動を推進してまいります。</p>
<p>私が住んでいるマンションでは、誰が住んでいるのか分からず、防犯の面で不安がある。近くに住んでいる人の顔と名前を知っておくと、見知らぬ人に対して警戒しやすくなり、犯罪者にとって、この地域では犯罪行為はできないと思わせるような日ごろの環境づくりが大事だと感じている。推進項目2にあるような、「誰もが住みよく、安心・安全に暮らせる地域社会」の実現に向けて、しっかりと取り組んでもらいたい。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえ、住民同士のつながりづくりや地域活動への住民の参加促進の取組を推進してまいります。</p>
<p>若い世代は、子どもが小さかったりして、子育てがある中で、平日は仕事で子どもをその配偶者、共働きの場合は保育所等に預けているので、休日くらいは子育てにと考えていると思います。その中で、仕事外の時間を地域活動にという人は、かなりのレアキャラだと思います。仕事外の時間を子育て以外に充てられるなら、自分の趣味に充てたい！という人がほとんど。ですので、ライフステージに応じた参加の促進</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえて、本ビジョンにも記載のとおり、誰もがそれぞれの年代や職業、働き方、ライフステージに応じて相互につながり、地域との関わりを持てるよう、一人一人の多様性を踏まえた参加促進に取り組めます。</p>

<p>は重要であり、効果があると思います。よろしくお願いします。</p>		
<p>正直、子育て中の親としては、仕事と子育てで精いっぱいであり、地域活動に参加してといっても無理だと思います。相当にバイタリティのある人とかであれば別かも知れませんが。ライフステージにあった参加ができれば、少しは話が変わるかも知れないと思います。</p>	B	
<p>地域活動に関しては、町内の班長をしていますが、その役として市からのチラシ等を回覧したり、町内の行事に合わせて集金したりこまごましたものがあります。子どもが小さく、また共働きの家庭にとってはこのくらいの参加が最大限に近いのではないのでしょうか。これに他の行事の役員とかを任されると、家のことを放ってでもそれをするようになるのでとても無理ですが、町内でそんなことを主張するわけにもいきません。</p> <p>ライフステージに応じた多様な関わり方があれば、それ進めてほしいです。</p>	B	
<p>私の近所では、子育て世代の同じ年代が多く住んでおり、道で会えばあいさつをするのは当たり前前の雰囲気がある。自治会に入っている、入っていないにかかわらず、互いにあいさつをするだけで、地域のつながりは保っている。運動会や地蔵盆などのイベントは知り合いを増やすきっかけになるので、誰でも気軽に参加できる機会をつくるのが大切だと思う。</p>	B	
<p>第3章について意見。基本指針1に成功すると指針2の取り組み展望がぐっと近づくと思っている。そして、指針1の「地域づくり」を応援し、私が最も大事だと考えるものは幼少期からの教育である。あたり前のように隣人が困っているなら、能力の範囲においてお手伝いする気持ちが欲しい。子どもたちの力はあなどれないものがある。正義感も強い。この純真な子どもも「学区まちづくり」の主人公であり、利発な子どもが集まり、担ってくれる「まちづくり」としていきたい。</p>	B	
<p>人の結束につながるのは、何らかの危機感であったり、課題であったり、必要性に関することが大きいと思う。人と人をつなぐ共通の因子は様々であり、型にはまらないいろんな形でアプローチしていくことが重要だと思う。福祉・防災・防犯以外にも必要なアプローチはあると思うので、行政の縦</p>	B	

<p>割りに陥ることなく取組を進めてほしい。 他都市から注目しています。</p>		
<p>地域のつながりといっても、子供の学校や習い事を通じたつながりなど一過性のものも多くある。住民同士のつながりについて市にどうこう言われるものではないし、つながりが長く続けばよいというものでもない。個人個人が自分なりのコミュニティがあればよく、押しつけがましい地域のつながりは疎ましいだけ。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考にさせていただきます。</p>
<p>地域住民との繋がりを深くするための取り組みとしては賛成であるが、繋がりが生まれることで犯罪が増えることがないような仕組みが必要。知り合いが増えて情報が洩れて犯罪が増えてしまっは、本末転倒である。</p>	C	
<p>町内会活動が大切なことはわかりますが、役員が回ってきて負担になるという意識が先に立ちます。働いている住民は時間が取りにくいので、負担感なく参加できるようなことができればよいと思います。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえて、本ビジョンにも記載のとおり、誰もがそれぞれの年代や職業、働き方、ライフステージに応じて相互につながり、地域との関わりを持てるよう、一人一人の多様性を踏まえた参加促進に取り組みます。</p>
<p>地域でのリーダーとなる人材の発掘と育成が大事。 若い年代の人材から、新しいリーダー的人材を生み出したい。気楽に利用できるSNSに皆で楽しんで参加できる環境づくりを、京都市がサポートやPRするのが良いのではないかと思う。共通の#（ハッシュタグ）で、各SNSを検索できる仕組みがあるので、これを活用する。特定の#で繋がるコミュニティのなかで、SNS投稿し、お互い楽しみながら「いいね」することで、そこでのつながりが生まれて、近所の人であることで、会ってみようか、集ってみようかとなればよい。 京都市としては、#キーワードの提案で、コミュニティの場を提供できる。地域の広報版、学校、市民しんぶん等々でPRしていきたい。特定の#で繋がったコミュニティが多数できるかと思う。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえ、住民同士のつながりづくりや地域活動への住民の参加促進の取組を推進してまいります。</p>

<p>住民がいろんな意味で多様化してきたことから、住民同士の居場所やつながりで重要なことは、私見ではあるが、決まったときに、決まった場所（媒体）で、モノや情報があり、連絡できること（定時・定点・連絡先など）ではないかと思う。そこで、例えばコロナ対策での三密回避のように、基礎的に重要なことをまとめ、キャッチフレーズにしてその普及を図ることが肝要だと考える。</p>	C	<p>いただいた御意見を住民同士のつながりづくりの取組の参考にさせていただきます。</p>
<p>基本方針を達成させるには、自治会単位で気軽に集まれる活動拠点（空家・お寺等の活用も一案）があれば、住民同志のつながりも出来、活性化ビジョン達成に向けた勉強会等も出来、参加しやすい地域づくりにも貢献出来るのではないかと考えます。（但し、拠点の使用料は公負担）</p>	C	
<p>2012～2016の4年間で地域コミュニティーが制定され、地域住民が主体となって進める活動を支援していただきありがとうございました。今回2021～2025年度までのビジョンを目指す目標が示されました。現状を考えて、一言ご意見申し上げます。</p> <p>定年退職後、地域の関りを求めてボランティア活動を10数年させていただいています。</p> <p>「みんなで目指す2025年の地域コミュニティーの姿」ですが、“繋がり”のむつかしさを痛切に感じています。</p> <p>古代の歴史ある地域の多様なコミュニティーが、それぞれの課題は把握出来たものの、地域の伝統、価値観の違い、根本的な精神（差別、上下関係、偏見等々）が根強く、それらを解決していくためには若年層との繋がりを大切に思っています。また、各部団体のリーダーの「寛容さ」が大切とも思っています。</p> <p>このビジョンを実行していく為にも、高齢者の私達が「支えの立場で」がんばります。</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会等が中心となり、地域コミュニティーが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、今後の地域コミュニティー活性化に係る施策・事業を推進してまいります。</p>
<p>1. ICTツールの活用の必要性は当自治連合会でも感じています。京都市でもスマホ教室など開催していますがどうしても取り残される高齢者が多数と感ずます。京都市として誰でも簡単に触れる機器の開発を進め、高齢者に貸し出すなどした工夫が必要と感ずます。</p>	C	<p>ICTツールの活用を促進することは、地域活動に参加しやすい環境づくりや住民同士のコミュニケーションの円滑化、場所・時間を問わない柔軟な関わり方を可能にします。</p>
<p>ICTツールについては、現在の高齢者の方にとって利用するのはとても難しいと思いました。現在、国はデジタル化の流れを加速しているのですが、社会全体がデジタル機器を使いこなせるほど支援が行き届いているとは思えません。</p>	C	<p>一方で、その普及に当たっては、住民だれもがICTツールを使えるようになるための支援が必</p>

<p>また、仮に ICT ツールを活用したとしても、ICT と地域活動は相性が悪いと感じました。</p> <p>例えば、地域活動に会議用の ZOOM 等を活用した場合、会議を行うという目的を達成するだけならば ZOOM を利用すればいいと思うのですが、地域活動に求められている役割は、ただ会議を行うだけではなく、様々な人が互いにお話をして、同じ地域に住む人たちが交流を深め、共に協力して生活をするということだと思います。ICT は家から出られない人との交流を容易にするというメリットも確かにあると思うのですが、ICT を使ったコミュニケーションは 1 対 1、もしくは 1 対 2、3 のコミュニケーションにしかならず、たくさんの人が、同じ場所で、違う話題のお話をして交流を深めるということが達成できません。大学のオンライン授業で、本来友人をつくる場所である小集団クラスがオンライン化したとたん、友人ができなくなってしまったという事例からも、ICT と地域活動の相性は悪いと思いました。</p> <p>もちろん、ICT を完全に排除するわけではなく、良い点も多くあります。しかし、ICT メインの地域活動を行う方向性になると、地域活動が衰退するおそれがあるので、コロナ禍前の地域活動を復活させることをメインとして、ICT は補助的な役割を果たすにとどめたほうが良いと思いました。</p>		<p>要あり、いただいた御意見は、今後の施策・事業の参考にさせていただきます。</p>
<p>ICT ツールの活用促進がなされることは望ましいことと思うが、今のスマートフォンやパソコンはまだメーカーの違いやアプリの違い、機種の違いによってデータのやりとりが円滑にいかないことが少なくない。もしみんなが ICT ツールを使用してコミュニケーションを図る助けにしようとするなら、アプリや機種が違っててもデータのやりとりができる工夫が必要である。PDF ファイルにすることで機種やアプリの違いを乗り越えることができる方法の一つではあるが、みんなが使えるという点ではまだ発展途上と言えるだろう。もっと機種やアプリの違いを乗り越えられる標準となるデータ形式が求められると考える。また操作方法の微妙な違いによっても戸惑うことが多く、所謂 ICT 難民なる者を作り出している一因でもあると思う。</p>	<p>C</p>	

<p>ア 自治会・町内会への加入促進や各種啓発</p> <p>如何にも「上から目線」の「啓発」という概念、用語で、コミュニティのビジョンを語ることに強い違和感を感じる。まして、「個人の価値観や働き方、ライフスタイル等が多様化している」（10 ページ）との認識があるにもかかわらず、古い行政用語である「啓発」を用いることは適切ではない。削除するか、「情報提供」や「参加機会の創出」などに改めるべきである。</p> <p>イ いきいきポイント手帳</p> <p>事業の趣旨を否定するものではないが、冊子が立派過ぎるのではないか。財政破綻寸前であることの認識がないと感じる。また、プレゼント抽選に応募できるような取組は、行政としてはなじまない。</p> <p>ウ 転入者地域交流支援制度</p> <p>ここでは、主として「ファミリー層」の持ち家（マンション）を想定されているようであるが、更に、賃貸住宅を、また、とかく地域とかわりがない一人暮らしの人をも対象に、住宅・不動産事業者の協力を得る方策を探るべきである。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考にさせていただきます。</p>
<p>地域活動に若い世代が参加しにくい、しない理由の一つには、参加すること自体は嫌ではないけれど、参加するとすぐに、「若いから」とか「今後を担ってもらわんとあかんから」といった理由ですぐに役に付けようとする（ついて欲しいと頼まれる）ことがあるからではないでしょうか。</p> <p>引越してきてまだどんな活動をしているかも知らないのに、前の人に聞いたらいいからとすぐに役を任されるのはプレッシャー以外の何物でもありません。</p> <p>参加することから役を担うまでの徐々にという流れがあるともう少し参加しやすいのではないのでしょうか。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域活動への住民の参加促進の参考にさせていただきます。</p>
<p>少子化、長寿化（高齢化）、核家族化、マンション化等で住民間のつながりの希薄化が進み「顔の見える関係」づくりの参加の充実化が望まれます。又、住民の地域活動への参加停滞、担い手不足に於いてはコロナ禍と共生する社会で第1に自分の身は自分で守る事が出来てこそ、公助、共助に参加、協力、ボランティアには無償、有償が有り、種類には数項目。詳しく丁寧に説明をする事。一方では諸クラブ（ライオンズ・ワイズメンズ）等とのコラボ（意見交換）をする事</p>	C	

<p>で1人でも多くの参加者の促進につながるのではないのでしょうか。</p>		
<p><地域活動への住民の参加促進></p> <p>何をしているかわからない、地域のことがわからない新しい住民がたくさんいらっしゃいます。そういう人でもわかるように、地域から発信することをサポートする内容が必要です。(例)銅駝学区のHP:回覧板、地域行事、町名の歴史、地図などわかりやすいです</p> <p>ちなみに、単身世帯は地域からお声掛けが全くないのが現状です。単身でも地域に参加したい人(がいれば)が参加できる入口、参加の仕方も行政のサポートもありながら地域で検討する内容を入れたほうがいいです。</p> <p>「真のワークライフバランス」推しは、地域に時間が奪われ、働く人の過労を招きかねません。家族で地域活動に取り組むような表現(子供は子供の役割が地域にある)はできませんか</p> <p>自治連の下部組織として認められたまちづくり委員会でもなくとも、地域活性化を願う若い人たち(単身者も多い)が大勢いらっしゃいます。そういう人たちの活動を、地域が認め、行政もサポートする体制も取り組み例で入れてはどうか(例:下京区菊浜学区、しもひが)</p>	C	
<p>どのレベルの「地域コミュニティ」の活性化を目指しているのか資料を読んでもふんわりしていてよくわかりませんが、近隣住民と挨拶をするだけでも地域活動に十分参加しているかと思います。コロナ禍でもありますし、共働きの核家族世帯や集合住宅に住んでいる方等「全ての人」が地域活動に参加するのは無理がありますし、市が先導をとって税金を使ってまで行うべきことでしょうか。未就学児がいたり仕事があるのに自治会活動への参加を強られるのも本末転倒でおかしな話です。</p>	C	
<p>私自身もそうであるんですが、誰かがしてくれるであろうと思っています。その心をどう動かせるかなのでは…。</p>	C	
<p>第一波の時に京大前の交差点近くで、一人暮らしで孤立している学生のために食料品や日用品の援助をしているボランティアの人たちを見た。</p> <p>学生ばかりでなく、ひとり暮らしの高齢者や留守番家庭の子供、福祉に頼れない人達などあらゆる世代の人が使えて、</p>	C	<p>いただいた御意見も参考にさせていただき、本ビジョンにも記載のとおり、誰もが気軽に参加できる居場所があり、それぞれの年代や職業、働き方、ライフステージ</p>

<p>居場所とご飯を提供できる街のお母さん食堂みたいなところがあればいいなと思った。</p> <p>空き家を活用したり地産地消で地元農家さんから材料を提供してもらったり、スーパーやコンビニの余剰食品を提供してもらうのもいい。小豆島の卵のように、NETで廃棄するしかない商品を安く買えたり、色々工夫は考えられると思う。</p> <p>学生や子供も時がたてば、いずれ逆にボランティアを担ってくれるようになれば継続的につながれると思うし、今日の込み具合とか献立とか行事予定の情報は掲示板や郵便ポストなど多くの人が目にするものを使ったり、メール（ショートメール含む）やLINEでお知らせするなど、気軽に使えるよう工夫したい。</p> <p>また、わが街の歴史や文化や景観について、ここに行けば学べたり、大学が多い京都ならではの学生たちの発表の場も設けて、子供からお年寄りまでも楽しめるゲーム感覚の学びの時間が作れるとみんなが楽しいと思う。</p>		<p>に応じて相互につながり、地域との関わりを持てるよう、一人一人の多様性を踏まえた参加促進に取り組みます。</p>
<p>地域活動に参加しても、何の仕事をしているかなどを知らせることになり、公務員であることを伝えると、どうしても役所で何とかしてもらえないの？とそれはちょっと違うだろうと思う様な頼られ方をされてしまうので、正直、参加したくないと思っています。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域活動への住民の参加促進の参考にさせていただきます。</p>
<p>「働いている方や子育て中の方でも過度な負担を感じることなく活動に参加できるよう、住民のライフステージに応じた多様な関わり方による地域活動への参加を促進します。」とあるが、イメージがわきにくい。町内会には入るけど役はやらなくていいとか時間が合うときのみ参加してもらえばいいというようなことを役所から言ってもらえるのか。</p>	C	<p>誰もがそれぞれの年代や職業、働き方、ライフステージに応じて相互につながり、地域との関わりを持てるよう、市役所では地域の主体的な取組の支援や環境づくりを行います。</p>
<p>地域活動に参加したい！と思って参加しだした人は少ないのではないのでしょうか。今、地域活動を担ってくださっている方々も、参加するうちに否応なしに、ということがあったのではないかと思います。だからこそ、今でも地域活動が続いているのだと思います。良薬は苦しではないですが、今は地域活動に参加していない人でも、参加することで支え手になっていくかも知れません。地域の気のいいおじさん、おばさんの半ば強引な勧誘？みたいなものも必要なのかなと思います。</p>	C	<p>いただいた御意見も参考にさせていただき、本ビジョンにも記載のとおり、誰もが気軽に参加できる居場所があり、それぞれの年代や職業、働き方、ライフステージに応じて相互につながり、地域との関わりを持てるよう、一人一人の多様性を踏まえた参加促進に取り組みます。</p>

<p>地域活動の中でも「参加して楽しい」又は「特に必要性の高い情報が得られる」といった利点があると参加しやすいが、前者については、世代によって楽しいのとらえ方が異なるため、後者に該当する防災といったものと幅広い世代への訴求がしやすく、地域活動参加の入口にちょうど良いのではないかと思う。</p> <p>また、最初から全ての地域活動に参加してもらうのではなく、入口として入りやすい地域活動をピックアップし、ステップを分けて住民参加を進めていくようなプラン提案のようなものがあると、多くの地域で活動しやすいのではないかと思う。</p>	C	
<p>全ての人に積極的な参加を促し活性化を図るより、独居老人や子育て世代、生活が困窮している方等、地域との繋がりを「本当に必要としている人」が簡単に地域コミュニティに参加、アクセスでき、適切な福祉支援等に繋がられる受仕組みを作った方が良いのではないのでしょうか。(全てを地域自治活動でカバーする必要はない。本当に必要なのは地域コミュニティとの繋がりではなく福祉支援である場合も多いのでは?)</p>	C	
<p>マンションに越してきてから1年経ちますが町の催しに参加したことがありません。理由は直接誘われたことがないからです。マンションの掲示板に運動会などの案内があり少し興味は持ちますが、行ってアウェイだったらどうしようと思うとなかなか勇気が出ません。中にはうっとおしいと感じる人もいると思いますが、近所の方から直接的に勧誘を受けたら、私のように興味があるけど一歩踏み出せない人でも参加できると思いました。</p>	C	<p>御意見を踏まえ、住民同士のつながりづくりや地域活動への住民の参加促進の取組を推進してまいります。</p>
<p>地域の行事は地元の一部の老人のためのものだと思う。学生や若者は友達と一緒にないと地域の行事に参加するきっかけがない。</p>	C	<p>いただいた御意見を踏まえて、本ビジョンにも記載のとおり、誰もがそれぞれの年代や職業、働き方、ライフステージに応じて相互につながり、地域との関わりを持てるよう、一人一人の多様性を踏まえた参加促進に取り組みます。</p>
<p>隣の町内会の人と話をした際、日々の町内回覧が煩雑なため、町内回覧はLINEに変更したとのこと。</p> <p>世帯で一人くらいはLINEが使えるだろうということで、反対意見もあったが進めたとのこと。回覧内容を写真にとって送</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり、ICTツールの活用を促進することは、地域活動に参加しやすい環境づくりや住民同士のコミュニケ</p>

<p>信するだけですごくおもしろかったです。</p> <p>こういう事例が、当たり前になってくると、役員の負担も減っていくかと思います。</p>		<p>ーションの円滑化、場所・時間を問わない柔軟な関わり方を可能にします。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、</p>
<p>この話に直接関係ないが、町内会の回覧版もメールか LINE でいいように思う。</p> <p>昼間に来て留守だと夜までまわせなかったり、雨でぬれたり、夜持っていくのはばかられる。</p> <p>そういった意味で今必要なことと、なくてもいいことの仕訳を再確認してほしいと思う。</p>	B	<p>住民間の情報共有における ICT ツールの活用促進や地域団体が地域活動に ICT ツールを導入するための支援等を推進してまいります。</p>
<p>町内から回覧板が回ってくるが、平日は帰宅するのが夜遅く、回覧物を読んで次のお宅に回すのが負担になっている。いまどきほとんどの人がスマホを持っている時代なので、すべて電子化してしまい、スキマ時間に見れるように効率化してほしい。デジタル化の流れの中で、当然考えるべきであるように思うが。</p>	B	
<p>回覧板が回ってくるが、このご時世不特定多数の手が触れたものを家に持ち込むことに抵抗がある。</p> <p>ぜひ ICT ツール化を進めて、SNS などを使って地域の情報共有をしてほしい</p>	B	
<p>まずは自分中心で仕事家庭であまった時間にボランティアか趣味を活かした活動とと思っている人が多く、紙で案内しても見ないで関心がないので忘れる。きっと隣組や門はき、町内会に入って町内は家で入っているから断る人が多くいますが、店と家ではご近所さんも違うと思うので、元学区にはいるように任意ではなく条例で決め、わが町の協力して行く事が京都市の生きのびる方法だと思います</p>	C	<p>自治会や学区等の任意団体への加入については、個々人の自由であるため、条例等の制定は難しいと考えておりますが、地縁を基盤としたコミュニティは、大災害発生時の相互協力、高齢者見守りや防犯などの観点からも重要な役割を担っており、引き続き、誰もが参加しやすい地域づくりなど、地域コミュニティ活性化に向けた取組を進めてまいります。</p>
<p>京都市は、「自治会、町内会はいくまで任意団体」という姿勢であるが、市として、自治会、町内会の活性化や活動支援を進めていくのであれば、まずは、自治会、町内会の実態把握を行うことが必要ではないか。</p> <p>例えば、自治会、町内会の区域や規約や会長などについて、区役所に届け出る制度を創設するべき。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考にさせていただきます。</p>

<p>地域活性化の為に様々な努力を重ねているが、京都市として自治会加入特典推進に協力いただき、誰もが住んで良かったと感じられる事業推進にも力を入れて取り組んでいきたい。</p>	C	
<p>コロナ禍で増々希薄になった、住んでいる街や人とのつながりを強化する事を考えたい。</p>	C	
<p>第3章地域コミュニティ「人と人とのつながり」大事な重視するべきところで福祉・防災・防犯等には必要。 令和2年度向島まちづくりビジョン推進会議発進で向島五街区・3棟・5棟間にある公園のコンクリートで出来た遊具ペンキ塗替えをしていただきました。子供達大人もおおよろこびでした。残りの2か所は放置となっております。</p>	C	
<p>所得が伸びず、伸びる希望も薄く、夫婦共働きで子供を保育園に預け、土日も副業をしている世代に地域活動に参加しるとは可哀想です。 地域の建築協定の合意が上手くできなかった経緯から思うに、町内全体の街づくり、環境、景観等を考える意識は極端に希薄になり、個人の価値観を前面に出す傾向は間違いなく強くなっています。 個人情報保護法を学んだ世代の割合が増え、地域活動に参加することによって知られなくても良い情報を他人に知られたくない。自分にはメリットがないことなので参加を断りたいとの思いが強いと思います。これが正直なところでしょう。 そこで、全世代総花的にビジョンをつくるのではなく、参加できる時間的余裕、金銭的余裕のあるシニア層～高齢者層に絞って活動の活性化を図ってはどうか。 活動をより見える化すれば、共働き世代の中でも振り向く人が出てくるかもしれません。その為には、会合を気軽に開ける場所の確保が必要です。小学校や支所では手続きが面倒で移動も大変です。今から言っても仕方がないので、民間施設等、地域住民が移動に便利な施設と提携するのも一法と思います。 高齢化、少子化はどうしようもないことです。高齢者を活動の中心にすれば、いろいろな問題も解決するように思えます。</p>	C	<p>京都では、住民自治の伝統や支え合いの精神に基づき、自治会、町内会等が中心となり、地域コミュニティが形成され、京都の発展に大きく寄与してきましたが、ライフスタイルや価値観の多様化等を背景として、地域住民同士のつながりの希薄化、地域団体の担い手不足が大きな課題となっています。 いただいた御意見は、今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考とさせていただきます。</p>
<p>SDGsの誰ひとり取り残さない観点は必要だが5ページの「誰もが」は「つながり 支え合って」につながるのでしょうか。かつての村社会の地域コミュニティを想定しているのでしょうか。せっかく多様性といっているのに「誰もが」の使い方を改めた方がいいと思います。</p>	C	<p>本ビジョンでは、誰もがつながり、支え合う地域づくりを目指しますが、それぞれの年代や職業、働き方、ライフステージに応じて地域との関わりを持てるよう、一</p>

		<p>一人の多様性を踏まえたつながりづくりに取り組みます。</p>
<p>各区における「まちづくりカフェ事業」の推進が実施されているとあるが、やましなGOGOカフェに楽しく参加させていただいています。</p> <p>新しい人にも知り合える機会ですし、新しい場所も知られる機会ですので、今後も継続してください。</p> <p>ここしばらく、開催のお知らせを見ないのですが、ネット等でされているのでしょうか。他区では開催されているところもあるようなのですが。</p> <p>情報を発信するにも交流するにも良い場所なので、コロナで大変だとは思いますが次回開催のお知らせを待っております。</p>	<p>C</p>	<p>担当する山科区役所へ連絡しておきます。</p>

(2) 基本指針2 多様な地域の特性に即した地域活動の促進

意見内容	区分	本市の考え方
<p>ICT, デジタル化により回覧およびチラシ配布等は軽減化に向けて整備され, 地域学区および自治会・町内会に必要とされる事柄(課題)を住民の自由意志によって決めていく地域コミュニティづくりが肝要です。もちろん行政との連携を踏まえて, 築いていかざるを得ません。そのためには現状の実態把握を共有化し, 新たなあるべき姿を形づくる作業(過程)が求められています。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえて, 今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業を推進してまいります。</p>
<p>我々の地域にもこれまで以上に様々な特性を持った人が増えており, 今まで通りの日本語で漢字仮名交じり文ばかりの回覧板ではそのような人たちに正しく情報を伝えることは難しくなっている。しかし多言語を使ったり, 点字などを使った文書を作ることは簡単なことではない。町内のゴミ集積場にも, ゴミ捨てについての注意書きに日本文に加えて, 中国語やハングルなどの掲示物を区役所の助けを得てつくったこともあるが, 毎回の回覧板にそのようなことを求めるのは困難である。</p>	B	<p>いただいた御意見も踏まえて, 本ビジョンにも記載のとおり, 誰もが「地域の一員」として安心して快適に暮らせる地域づくりを進めてまいります。</p>
<p>地域の特性・課題の「見える化」の取組への支援の重点的な取り組みで挙げている「学区カルテ等の作成支援」については, 地域がそれぞれで作成したカルテを行政に提供してもらうことで, 行政の方でもデータ分析により現状把握ができると考えられるため。地域, 行政の両方にとって良いものとなることを期待しております。</p>	B	<p>いただいた御意見を踏まえて, 今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業を推進してまいります。</p>
<p>京都市は, 学区の自治連会長レベルでの意見交換会は実施しているようですが, 自治会・町内会会長レベルでの意見交換会の場があれば, と思います。</p>	B	<p>御意見を踏まえ, 意見交換会や検討会など地域における話し合いの場づくりへの支援等の取組を推進してまいります。</p>
<p>推進項目4にある, 時代に即した活動方法の見直しはぜひ進めてほしい。長年やってきたから, という理由で毎年続けている活動はいらない。コロナで地域の活動が一斉にストップしたが, 普段の生活で困ることはほとんどなく, むしろ休日の予定が立てやすくなった。コロナが一段落しても活動のスクラップを望む。</p>	B	<p>本ビジョンにも記載のとおり, 地域団体が将来にわたって運営を継続していくためには, 新たな担い手の育成はもとより, 社会環境の変化に合わせて地域で担う活動の効率化や負担軽減を図っていくことが重要です。</p>
<p>コロナの影響で地域活動がほぼストップした。 なんとか戻さなくては, という思いと, なくなってホッとした, 心労が減った部分と両方ある。</p>		

<p>これまでの取組を続けているだけではうまくいかないだろうとは思っていた。</p> <p>だが、多様性を踏まえて、どう人と接していけばいいか、地域をまとめていけばいいかわからない。変えることの方がそのままのことよりも労力が大きい。</p> <p>何を変えたらいいのか。どう取り組んだらいいのか。</p> <p>ビジョンの方向性は賛成である。具体的な取組に期待する。</p>		<p>いただいた御意見を踏まえて、地域団体の持続可能な運営の支援を行ってまいります。</p>
<p>イベントにおいて各種団体・自治会役員等、固定化 住民参加者以外で地域活動になじんでいない人達、今後地域活動を担っていただく人の発展・育成が重要。</p> <p>ただイベントをして人を集めるだけの活動よりも人材作り、つながり等、内容に意義がある取組を。</p> <p>過度な参加促進ではなくゆとりのある持続可能な地域活動が大切。</p>	B	
<p>町内会・自治会を持続可能な組織にするには、抜本的な見直しが必要だと思う。各種団体の中には時代に合っていないものもあり、中身が形骸化したまま単なる役員の負担になっていると感じる。全体的に組織のスリム化が必要だと思う。</p>	B	
<p>退会者が増える要因として、時代や社会環境の変化も考えられるが、自治連合会ははじめ各種団体の活動が旧態依然とした運営を続けていることも要因だと感じる。</p> <p>退会する一番の原因は役にある。特に体育委員は、自動的に学区体育振興会の仕事もやることになる。運動会など、様々な行事で参加者を集める際に、自分の町内で希望者を募っても参加者がなく、それをそのまま学区の体振会長へ報告したら、「頑張って集めてこい」と言われた。自治会が大きな組織の末端として活動を強制されている状況がある。</p> <p>基本的には住民の考えるべきことだと理解しているが、行政でも対策を考えてほしい。</p>	B	
<p>町内会の高齢化により、将来、町内会が運営していけるのかと非常に心配になっています。そうならないためにも、もっと若い世代の町内会参加が必要と感じてはいますが、どのようにすればいいかわからず困っていますので、役所からの支援を希望します。</p>	B	<p>いただいた御意見も踏まえて、本ビジョンにも記載のとおり、誰もが気軽に参加できる居場所があり、それぞれの年代や職業、働き方、ライフステージに応じて相互</p>
<p>現況として、地域コミュニティの推進役の代表の高齢化がなお一層進んでいる。若い年齢層、子育て層の意見の繁栄が不可欠となるが、仕事・家事の多忙化により進んでいないところがある。そこで、京都市在住の教職員（とりわけ子育て</p>	B	<p>につながり、地域との関わりを持てるよう、一人一人の多様性を踏まえた参加促進に取り組みます。</p>

<p>層)に協力を得て、京都市から認証を与えて、勤務校、在任の学校の地域いずれかにパブリックコメンテーターとして委嘱するのはどうか。その際、教職員はICTスキルが一定あるので、対面だけではなく、ICTを活用してZoom会議、WEBアンケート等を活用して、京都市の地域コミュニティに参画してもらおう。</p> <p>ただし、働き方改革の中で、勤務校での校務分掌での配慮をするか、一定の報酬(地方公務員法に抵触しない範囲で)を付与するなどすることを忘れないでほしい。</p>		
<p>「支え手育成の取組」とありますが 行政が支え手を育成してしまった時点で もはや自治や住民が主体となって進めるとは呼べないのでは。</p> <p>何か直接的な取組が必要なのではなく きっかけを作ることや誘導することが大事だと思います。そういったことが伝わるような表現 企画 取組にしてほしい。</p>	B	<p>地域団体が新たな担い手を育成できるよう、市役所では地域の主体的な取組の支援や環境づくりを行います。</p>
<p>まちづくりアドバイザーのこの間の活動事例をホームページで拝見しました。参加している人は一部の人だけで地域全体として大きな動きを感じません。推進項目3にまちづくりアドバイザー等の専門家の派遣とありますが、ホームページでは現在14名の方がアドバイザーとしてしているとあります。そんなに必要でしょうか?京都市は財政危機と言われているのに、まちづくりの専門家を雇うより、やるべきことがあるのではないのでしょうか?</p>	C	<p>本ビジョンでは、地域団体による地域課題の把握・解決のため、取組例として、まちづくりアドバイザー等の専門家の派遣を掲げています。</p> <p>いただいた御意見は、今後の取組の参考とさせていただきます。</p>
<p>複雑化する地域課題への対応は必要なことではあるが、そもそも課題を解決できるほどのマンパワーが今の自治会には無い。役員や班長は高齢化し、自治活動を行える範囲にも限界がある。頼みの綱となる若い世代は自治会に入らず、どんどん加入者が少なくなり、活動の縮小を余儀なくされることはおろか、存続の危機に瀕している自治会も多々ある。</p> <p>役員は1年交代する場合が多く、また、そのほとんどがまちづくりの専門家ではない。自治会運営などの課題を知恵やノウハウに乏しい素人だけで解決するには限界がある。</p> <p>そのため、まちづくりアドバイザーという専門家がいるのであれば、その人たちに積極的に関わってもらい、継続して自治会運営していくためのサポートをお願いしたい。</p> <p>まずは、日ごろの活動に悩む自治会が、まちづくりの専門家に気軽に相談できる仕組みや環境を用意し、多くの自治会が利用できるように、しっかりと周知するべきだと思う。</p>	B	<p>本ビジョンでは、地域団体による地域課題の把握・解決のため、取組例として、まちづくりアドバイザー等の専門家の派遣を掲げています。</p> <p>いただいた御意見も踏まえて、今後の取組を推進してまいります。</p>

<p>自治会長を務めています。</p> <p>地域のつながりは大事だと思いますが、過剰なつながりは時代に合いません。連合会のおえらいさんに言っても何も変わりません。</p> <p>コロナでなくなってみんなほっとしていますが、学区の運動会なんて最たるものです。</p> <p>区役所に相談しても、地域のことは地域で、と取り合ってもらえません。</p> <p>不必要なつながりを求められることは、大きな地域課題だと思いますが、連合会では、一町内会の意見を取り上げる気はないようです。連合会のお偉いさんのところにまちづくりアドバイザーを派遣し、住民の意見を反映した適切なアドバイスをお願いします。</p>	B	
<p>地域団体による地域課題の把握や運営支援は必要不可欠だと思いますが、高齢世帯や若年層に偏りのある地域や、いわゆる当て職でやむなく会長を担う地域などに対して、示された取組例では行政側が待ちの姿勢になっているように見え、なかなか地域から手が挙がらないように思います。</p> <p>何のためのまちづくりアドバイザーなのでしょう。見たところ、区役所の職員が賄えきれない地域のサポートをする専門家の方々ではないのでしょうか。活動媒体は充実しているように窥えますので、一つの地域を温め、事例を培っていくステップではなく、地域の会合に定期的に足を運び、実態を知り、個々の地域団体にヒアリングをするぐらいの積極性が欲しいと思いました。</p>	B	

(3) 基本指針3 多様な主体の連携・協働の促進

意見内容	区分	本市の考え方
<p>勤労者に地域への関心を持たせることは重要な課題である と考える。それに加えて、勤労者が地域への活動がしやすいよ うに企業自体も従業員に対して地域活動への参加を促すよう な意識を持ってもらえるような制度を設けるなどのことも必 要であろう。育児休業がようやく男性でも取得できるかに見え ているが、現実にはまだまだ厳しい現実がある。これは育児休 業に対して男性個々人の意識を変える必要がまだまだあるが、 働いている職場自体にも意識的な改革がまだまだ足りていな いと言える。</p>	C	<p>本ビジョンでは、地域コミュニ ティ活性化に向けて、地域団体、 市民活動団体、地域企業、大学、 福祉団体等、多様な主体がそれぞ れの特性を發揮し、これまでの役 割や範囲を超えて連携・協働する ことを目指しており、いただいた 御意見も参考にして、企業等、多 様な主体が地域活動に参加しやす い仕組みづくりに取り組みます。</p>
<p>連携・協働では、在宅勤務などが増え社員の地域貢献を企業 が支援する社会が作られつつあるので、地域貢献する社員の制 度保証や結果の見える化などの仕組みを整えていくことも重 要と考える。</p>	C	
<p>基本方針1と2の中の推進項目に比べて基本指針3とその 推進項目「市民活動団体等と地域団体との連携」は細かすぎる 方法論だと感じる。「『みんなごと』のまちづくりを一層推進す る」を基本指針に置き、その推進項目の一つとして「多様な主 体の連携・協働の促進」を設定するのがよい。その他の推進項 目の案としては「個人が地域課題に興味を持つきっかけづく り」「地域課題に取り組む主体の拡大」など。</p>	C	<p>本ビジョンの「基本指針3」及 び「推進項目5」については、上 位計画である京都市基本計画「は ばたけ未来へ！京（みやこ）プラ ン2025」に掲げる「みんなで目指 す2025年の姿」の「3 市民活 動団体等と地域団体が連携し、地 域コミュニティの活性化に向けた 活動が進んでいる。」を踏まえて作 成したものです。</p> <p>いただいた御意見はビジョン作 成において参考にさせていただきます。</p>
<p>市民団体や企業、大学などと連携するために、何をすればよ いかわからないので、マッチングや連携を深める取組を推 進していただけるのは大変ありがたいです。マッチングなどに 参加できるようアンテナは張ろうと思っておりますが情報発信 もよろしくお願いいたします。</p>	B	<p>いただいた御意見も踏まえて、 本ビジョンに記載のとおり、地域 団体、市民活動団体、地域企業、 大学、福祉団体等、多様な主体が それぞれの特性を發揮し、これま での役割や範囲を超えて連携・協 働することを推進します。</p>
<p>地域まちづくりの推進においては地域住民が主体となって 取り組まなければなりません、まちづくり活動は地域に所在 する各種団体・企業・事業に所属する社員等が地域の問題点・ 課題点に共通認識をもって取り組まなくてはなりません。</p> <p>地域課題の洗い出しは、地域住民・各種団体・地域企業（社</p>	B	

<p>員等)がワークショップ等で話し合い、共通認識を持ち方向性を認識して計画的に取り組んでいます。</p> <p>地域まちづくりは地域住民・各種団体・地域に所在する企業・従業員が一体となって取り組まなくてはならない。と考えます。</p>		
<p>●市民活動団体等と地域団体との連携</p> <p>歴史ある通りや地域で活躍するまちづくり協議会について、その活動には敬意を表しますが、元学区や小学校単位の地域活動との接点が希薄に感じます。どうしても通りに面する活動が中心になり、通りと交差する部分への拡がりがありません。当該団体だけでなく、行政や関係公益法人も周辺地域全体へ働き掛けがあってもいいのではないのでしょうか。</p> <p>学区単位の団体だけでなく、様々な社会的問題に取り組んでいる活動があり、それらを繋ぐ機会として、例えば上京朝カフェや中京マチビトカフェなどがあります。</p>	C	<p>いただいた御意見を、地域コミュニティにおける多様な主体の連携・協働の促進を進めるうえで参考とさせていただきます。</p>
<p>大学に協力してもらい、学生に対し自治会への加入をはじめとする地域活動への参加を積極的に促してもらうことが大切だと思います。地域の人が言っても、学生マンションに住む学生達とは話す機会自体少ない。大学であれば常々促す機会が多い。</p>	B	<p>いただいた御意見も踏まえて、本ビジョンに記載のとおり、地域団体、市民活動団体、地域企業、大学、福祉団体等、多様な主体がそれぞれの特性を發揮し、これまでの役割や範囲を超えて連携・協働することを推進します。</p>
<p>地域の情報をもっとオープンにして、学生に活動に興味を持ってもらうことが必要。マンネリ化した活動を学生のアイデアで活発化してほしい。</p>	B	
<p>大学との連携をしっかりと進めてほしい。</p>	B	
<p>コロナ禍で大学生の学外活動が制限されている。時間的に余裕のある学生の力を借りて活動を活発化できないか。</p>	B	
<p>第1章(目標)1及び2は達成できると確信しているし、達成するように誘導する会則をつくりあげた。しかし、3の目標はハードルが高い。市民活動団体等と地域活動の成り立ちが異なっているし、集合する人(顔)が異なる。また、地域団体の多くがその体質から排除しようと努力している。住民間のピラミッド型関係は、市民活動団体等に時として必要な場合もあることなどを考えるとき、たやすくはない。</p> <p>上京区中立学区住民福祉協議会の会則を同封します</p>	C	<p>いただいた御意見を地域コミュニティにおける多様な主体の連携・協働の促進を進めるうえで参考にさせていただきます。</p>
<p>地域課題の解決に関わる主体の増加では、企業とひとくくりにはせず、商店街、同友会、信金なども見えるように表記したほうが良いかと思います。</p>	C	

<p>ビジョンの目指す姿（目標）3 に示されている「市民活動団体等」とは具体的にどのような活動をしている団体を示しているのか、又「等」とは具体的に「市民活動団体」に含まれないどのような集団を示しているのか等明らかに示して頂きたい。</p>	<p>C</p>	<p>本ビジョンでは、まちを良くするため、住みやすいまちにするための様々な自主的な活動等を行っている NPO やボランティアグループ等の団体を総じて市民活動団体等とし、その他福祉団体、大学、地域企業など、あらゆる主体との連携を深める取組を推進していくこととしております。</p>
<p>自治会・町内会があまり民主的な組織ではないように感じます。自治連の会長などは我々が選ぶ機会も無いのにこんな組織を再興する必要があるのでしょうか。どこまで、まちづくりの知識があるか分からない人に地域を任せる必要性がいまいち分かりません。</p> <p>大学等も京都市にはたくさんありますし、そういった学識者たちに自治連の会長などをしていただくのはいかがでしょうか？そういったことが、大学の真の社会貢献なのだと考えます。また、会長などはほとんど男性がかためていることもおかしいです。女性のリーダーを増やすということを盛り込んではいかがでしょうか？</p> <p>少なくともこれまでの地域の高齢者男性が舵を取る地域コミュニティの再興など望んでいません。大学や企業、NPO 等にも関わってもらい新しい地域コミュニティの創造の一助となるビジョンであることを強く望みます。</p>	<p>B</p>	<p>本ビジョンでは、地域団体、市民活動団体、地域企業、大学、福祉団体等、多様な主体がそれぞれの特性を発揮し、これまでの役割や範囲を超えて連携・協働し、新たな行動や解決策を生み出す「みんなごと」のまちづくりを一層推進します。</p> <p>いただいた御意見を踏まえて、多様な主体の連携・協働等を推進してまいります。</p>

5 第4章 京都市地域コミュニティ活性化ビジョンの推進体制等

意見内容	区分	本市の考え方
<p>行政区代表者会議を重ねつつ、各学区の課題対策を市・行政区とも中央意見主義（PR効果はあるが）にとどまらないこと。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後地域コミュニティ活性化ビジョンを推進するに当たっての参考とさせていただきます。</p>
<p>永遠の課題を2025年目標値にしたところに意味あり（市計画とはちがう）具体的にステップを検討・実行に移すこと（市・区・学区・町内会とも）</p>	C	
<p>地域住民が自主的にコミュニティー活動に取り組む支えは市の職員ですが、完成した豪華な市庁舎にいる職員の大多数は地域住民と接触したこともないと思う。皆さん現場に出て、経験を下に協力体制を作ってください。</p>	C	
<p>市行政の縦割りが児童から高齢といった多岐にわたる範囲をカバーしなければならない地域コミュニティを阻害している。</p> <p>市民側から発信しても検討中ばかりで曖昧回答が多いのもこうしたことからだと言えます。</p> <p>まずは市側が横断的に横刺しできる機動的な部署をつくり対応するのが良いと言えます。</p> <p>児童は児童，高齢者は高齢，障害は障害</p> <p>バラバラな組織のバカの壁を市側が崩さないと地域コミュニティは出来ないであろう</p> <p>こうした意見への回答も具体性無く抽象的な回答となることだろうが少しの期待と、同じような思いを持つ市職員が要ることに期待して…</p>	C	
<p>基本指針では多様性，多様という言葉が使われており，価値観が多様化する現代に適した標記になっているかと考える。推進項目については，計画で定める内容が，具体的な取組として機能するようにしっかりと進捗管理を行っていただきたい。また，一度作った計画に固執せず，「多様化」という言葉の意味も踏まえうえで時代の流れを捉え，臨機応変に対応することが重要であると考え。将来的に自治会・町内会等の団体がどのようにあれば良いのか全国に示すモデルとなれるよう，取り組んでいただきたい。</p>	C	

6 ビジョン（案）全般について

意見内容	区分	本市の考え方
<p>町内会と市政協力委員との関係がわかりません。市政協力委員制度は、他の都市でも普通にあるのでしょうか。地域の負担となっているようなら、市政協力委員の制度を廃止し、町内会の組織を強化することに力を入れるのがいいのではないかと思います。</p> <p>コミュニティの強化に行政がいろいろと支援するとあります。それはけっこうなことではありますが、お金や職員さんの手間がかかります。どれくらいの予算規模や人員が必要か、計画にいれてはいかがでしょう。</p> <p>他都市では、このような取り組みを行っているのでしょうか。京都市が先進的な取り組みをしているのでしょうか。先進的であったり、他の都市にない取り組みであるならば、もっとPRしましょう。</p>	C	<p>いただいた御意見を今後の地域コミュニティ活性化に係る施策・事業の参考にさせていただきます。</p>
<p>行政財計画によれば、パブリックコメント（意見募集）が必ずしも必要でない（事案もある）としていることから、京都市文化市民局所管のパブリックコメント（意見募集）について、どのような取組みをするのか示されたい。また、「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン」について、どのような対応するのか示されたい。</p>	C	<p>パブリックコメントの実施については、市民参加推進条例の趣旨を踏まえ、各所管において、実施の可否を判断することとしております。</p> <p>地域コミュニティは、市民の皆さまの暮らしのベースにあるもので、多くの方に関係するものであることから、本件のとおり、パブリックコメントを実施しました。</p>

7 ビジョンには直接関係するものではないが、市政運営等の参考とするもの（D）

以下の御意見は、個別の施策等に関する貴重な御意見であり、今後の市政運営の参考にさせていただきます。

- ・ 建造物の高さ制限はある程度必要とは思いますがこのままでは京都市に住民税を支払う人口はどんどん減るのではないのでしょうか？結婚に伴い京都市内で住居を求めましたが、アクセスの良いところには非常に高額になるか、手ごろでも狭小住宅しかありません。マンション等も中古でも高止まりしています。世帯年収1200万程度ではもはや京都市内に住むメリットがありません。アクセスの良い大阪方面で探しております。同じ価格帯でも建物面積が全然違います。京都市内で勤務しておりますが、京都市内で住宅を購入する気になれません。カルト宗教団体などを脱税で摘発して土地を徴用し住宅を供給してください。

高さ制限があることで土地価格が上昇し得をするのは元々土地を持っている層のみです。いま京都市に必要なのは域外からの勤労世帯の流入です。既に人がいるところは権利、利権が絡んで無理でしょう。20年

単位で考えて新たな動線を作らないと、年寄と病院だけになってしまいますよ。

- ・ 大学などに協力を要請し、地域活性化推進を進めたいが、久我の杜地域の交通網の不便さで。要請も厳しい。市バスの阪急沿線（長岡京・東向日・桂）への路線網拡大、市内への乗り換えなし1本化の検討を要請します。
- ・ 過労死やブラックなはたらかせ方、などはたらける者はいくらでもはたらかせるような仕組み。絶対に勤務時間内に終わらないような量の仕事を与えて、いくら早く仕事が終わってもそのノルマさえ達成できれば良いなどと、最初から労働者をだましてこき使うような労働条件を進める企業の横行。そのようなことは極端な例かも知れないが決して少なくはなく、現に過労死に至らなくてもこのままでは自分が潰れてしまうと判断して退職している若者は少なくない。

従来と比較して極端に労働時間が長くなり、8時間以上の労働は当たり前になっていることが、いろいろな社会現象につながっていると思う。

高齢化社会などと言われるが、これは自然に起きたことではなく、上記の劣悪な労働環境を作り出してきてしまった行政、政治に大きな問題があると考えます。

高齢化故に体を動かすことに困難をかかえ、地域の集まりや役員の会合に足を運ぶのさえ困難になり、自治会を辞めたいと言いつける人が増えてきている。子育てや教育に対して自己責任的に保護者の負担が大きく、家庭の経済状況によって子どもの教育環境も大きな格差が生まれている現実に国や地方自治体は積極的に解決しようとしていない。

また、独身の若者の給料は税金や保険料を引かれて残ったのは4分の3ぐらいしかない。そのような状況では結婚を踏みとどまる人が増えるのも当たり前のような気がする。ましてや子育てのことを考えると、子作りを躊躇する気持ちもわかる。不安定の雇用、劣悪な労働条件、過重な勤務実態などなど、子作りや子育てはますます難しくなっているのではないかと。その部分にしっかりメスを入れて、安心して働ける環境をつくる必要があると思う。

もう少しみんなが時間的にも気持ち的にもゆとりを持ってはたらき、休息し、娯楽を楽しめるような環境であれば、自然災害に備えなければならないことはわかっているのだから、そのために地域住民が力を合わせないといけないことも多くの人々が認識していると考えます。自主防災会の活動にも自分の自治連合会では毎年数百人規模の人が参加してくれていることを見ても、地域住民の意識は決して低くないと考えます。

- ・ 動物たちを大切にしてほしい。休業している犬猫カフェ等にも支援金を出してほしい。
人間のせいでも苦しむのは、いつも動物や生き物たち。捨て犬、捨て猫を助けてあげる。
あと、糞を持って帰らない飼い主もどうにかならんか。犬のせいじゃない、人間せい。
- ・ 「真のライフワークバランス」という言葉はよくない。「ニセのワークライフバランス」があるように感じる。
- ・ 京都市は 高さ制限があったのだから 上部に高速が作れないから 中途半端な地下鉄より地下高速道路が必要だっただろう！また、地上は 長崎のように高速路面電車が重要だった。更に 京都縦貫道は 桂川 PA に繋げ SA のように地元の野菜などを販売して収益を上げないといけなかったのに京都府に奈良に行くコースを作られた挙句 竹が生えていた事でもわかるように負の道路の遺産(恐らく砂地というか土地自体が柔らかいのではないかと！)その事は 阪神大震災から推察！)を作ってしまった(地元が道路建設に意味あつて約 30 年も反対してきたのに！) 京都府は京都市にとっては 分担ではなく敵であるという発想がない！(先程も記載した通り 京都縦貫道は 桂川 PA に繋げて SA のように 地元の野菜などの特産品を販売して収益

を 上げないといけなかったのに 京都府に奈良に行くコースを作られた挙句 竹が生えていた事でも わかるように(柔い)負の道路の遺産を作ってしまった事が 縦貫道建設時に私が言いたかったから 当然の棄却であろう！つまり 本来 京都市が 儲けないといけなかった事業だからです。

これだけ古都税など失政が続ければ多額の負債は 当然で今更やれるコトは少ないが今からでも桂川 PA に 名神から入れるインターを作り地元の野菜など特産品を販売するように京都縦貫道の沓掛インターから桂川 PA 迄の道を整備する事！！(将来の展望がないから目先の事しか関心がないのでしょうか！)

- ・ 選択と集中すべき。市民一人当たり市債残高、臨財債含め、全会計¥1,448 千円（出所：令和元年度決裁概況について：令和 2 年 8 月 5 日プレリリース）であるため、具体的には取組み例（P6～8）に関し、本市（京都市）（当該行政区、地域（町内会・自治会）の関係性について説明した上で、切り分けて示されたい。
- ・ まちを歩いていると、路上喫煙や違法駐車に迷惑駐輪、ゴミのポイ捨て、歩行者の信号無視など眉を顰めることが増えました。

それぞれ市の職員や委託業者が取り締まりや注意喚起をされていますが、例えば違法駐車取り締まりの横で喫煙しているケースでは、関係職員が他の業務についても声を掛けて頂きたいと思います。職務や担当業務外であっても、注意喚起のチラシやプレートを携帯すればどうでしょうか。